ＲＳＶ抗原	3904300
	担当部署
RSV 抗原	微生物

検査オーダー

患者同意に関する要求事項		該当なし
オーダリング手順	1	電子カルテ→指示①→検査→*7.特殊細菌→
	2	電子カルテ→指示①→検査→*3.緊急→
	3	
	4	
	5	
検査に影響する臨床情報		ヘモグロビン（0.25%）及び添付文書に記載の一般用医薬品、処方薬に関して、記載した濃度では判定への影響が認められなかった。 添付文書に記載の細菌・真菌及びウイルスとの交差反応は認められなかった。 確定診断は、臨床症状や RT-PCR 等、他の検査結果と合わせて担当医師が総合的に判断して行うこと。
検査受付時間		緊急対応（24 時間）

検体採取・搬送・保存

患者の事前準備事項	該当なし
検体採取の特別なタイミング	特に無し

検体の種類		採取管名	内容物	採取量	単位
1	鼻腔	細菌　綿棒３	なし		
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					

検体搬送条件	室温 採取後直ちに提出
検体受入不可基準	1）検査ラベルがない検体 2）専用の綿棒以外で採取された検体 3）乾燥した検体

保管検体の保存期間	保存不可

検査結果・報告

検査室の所在地	病院棟 3 階　中央検査部				
測定時間	当日中				
生物学的基準範囲	陰性（－）				
臨床判断値	該当なし				
基準値				単位	なし
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値
設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし
パニック値	高値	該当なし			
	低値	該当なし			
生理的変動要因	該当なし				
臨床的意義	世界中に存在し、地理的あるいは気候的な偏りはなく、乳幼児の感染が多いことが特徴である。わが国においては 11 月～1 月にピークに達し、小児の細気管支炎や肺炎の原因となる。飛沫感染により、上気道粘膜上皮に感染し増殖する。乳児期、とくに生後 6 カ月未満では細気管支炎や肺炎を発症することが多く、成人では軽症である。 「 JAMT 技術教本シリーズ　臨床微生物検査技術教本　2017 年」				